

NUPRI NEWS

Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人
長野都市経営研究所

Vol.49

2014.APL.

NPO法人 長野都市経営研究所

発行日/2014年4月15日 (年4回)

発行/NPO法人 長野都市経営研究所 〒380-0834 長野市大字鶴賀問御所町1289-1 丸本ビル2F TEL 026-235-7911 FAX 026-235-6166 http://www.nupri.or.jp E-mail : nupri@nupri.or.jp

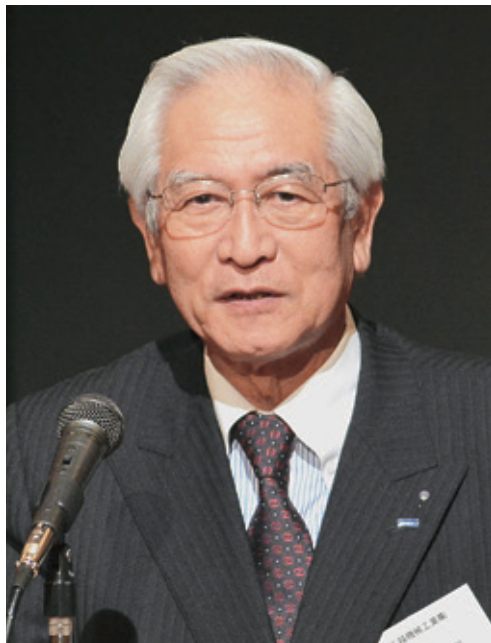
NUPRI 2014年 全体懇談会

NUPRI 設立20年の節目の年 2015年に向け 「観光の長野」を支える力に

2月27日、「NUPRI 全体懇談会」が長野ホテル犀北館にて役員・会員あわせ40余名の出席により開催されました。新長野市政を背負う加藤長野市長、地域の商工業界のリーダーとなった北村長野商工会議所会頭、そして岩野・小根山両副会頭を輩出した組織として、長野の地域づくりへの責任と使命をあらためて実感している今年のNUPRI。2015年の長野北陸新幹線延伸と善光寺御開帳を控えた大切な年でもあり、どのような考えで何をすべきかを真剣に議論する全体懇談会となりました。

今年度の活動方針について発表が行われました。各部署の中間報告・活動方針発表に続いて、鷺澤前市長の基調講演及び役員によるパネルディスカッションが行われ、今後のNUPRIの活動について、熱い意見交換がなされました。会場を移して行った懇親会は、北村事務局次長の長野商工会議所会頭ご就任及び岩野事務局長、小根山会員の同副会頭ご就任の祝賀会を兼ねてなごやかに開催。各氏への花束贈呈、各氏のあいさつ、そして鷺澤前市長の乾杯によって大いに盛り上がり、その後も長野の未来を語る建設的な歓談が繰り広げられました。

全体懇談会 報告



20周年を正念場として

市川理事長

日ごろはNUPRIの活動にご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。

先頃のソチ冬季オリンピックは、心配されていたテロ攻撃もなく、無事に閉幕したことを喜びたいと思います。今回の日本選手団の活躍を振り返ると、若者の伸びやかな活躍が際立ったと感じます。一方で、ベテラン選手や期待をかけられた選手がプレッシャーに苦しむ場面も目にし、現代日本人の気質を反映した大会だったといえるのではないのでしょうか。我々NUPRIは、今年11月に設立20年を迎えます。長野冬季オリンピックの盛り上げと、その後の

地域活性化に尽力する民間団体として、独自の活動を展開してきたわけですが、20年といえば、オリンピックの選手団でいえば大ベテランの域。だからといってプレッシャーなどに苦しんでいるわけにはいきません。これまでも組織を改編し、若手を増やし、時代に対応しながら地域のまちづくりに貢献してきましたが、今後も前進していきたいと考えます。

今年度は2015年の新幹線延伸ならびに善光寺御開帳を控えた大事な年。「観光のまちづくり」をテーマに、各部署の活動を進めていくのはもちろん、それらが、「住んでいるまちがよくなる」ことにつながっていくような取り組みにしていきたいと考えます。皆さんのご理解、ご協力をぜひよろしくお願い申し上げます。

部会活動中間報告・ 2014年方針発表

広域の魅力発信と 地域内消費に向けて

観光母都市ながの部会 市村部会長
世論調査によれば、石川県を訪れる人の70%が金沢に宿泊しているとのデータが出ています。すでに金沢では、長野に先じて「観光母都市」としての機能がスタートしているといえそうです。この状況を踏まえ、長野の施策を検討しなくてはなりません。東京からわずか1.5時間の長野に宿泊・滞在してもらうためには、現在の交通網にプラスする要素が必須です。ことに早朝と夜をどうするか。これについては、次の機会に具体的な発表をしたいと考えます。また、新幹線等の列車の長野駅発車時にホームに「信濃の国」のメロディーを流すという働きかけも進めていきたい考えです。



今年度は地域イベントとの コラボを模索

門前まち花遊歩 鈴木事務局次長

昨年10月21日に第2回となる「門前まち花遊歩」を開催しました。昨年は「元気づくり支援金」を得て開催。イベント自体は定着してきたか見えますが、より注目を集め、地域の活性化に寄与するものとするにはまだ弱く、参加した女性たちからも「もっと目立ちたい」との要望が出ました。そこで今年は「表参道秋まつり」が行われる10月5日(日)に開催し、地域イベントやマスコミとのコラボレートを図っていく予定です。「牛に引かれて」という伝説から多少逸脱する取り組みとなることも含め、皆さんにご了承いただき、引き続きお力添えをお願いいたします。



調査の切り口、 コースなどのご提案を

ここ掘れ！長野調査隊 竜野調査隊長

昨年度はすでに2回調査隊を開催しました。1回目は「リノベーション」をテーマにまちを歩いて調査・発見し、また2

回目はリノベーションの店舗（オリカフエ）での体験をテーマに開催し、いずれも地元の方の案内、指南により、有意義な体験ができたと感じています。第3回は歴史に目を向けようと、郷土史家の小林一郎先生に案内・説明をお願いしています。このようにさまざまな観点から埋もれている長野市街地の魅力掘り起こしを行っています。皆さんのご参加をお願いするとともに、今度へのご希望やご提案をお寄せください。



定住人口増加の キーワードとして「教育」を

シティプロモーション 松本理事

(長野市シティプロモーション実行委員)
長野市が推進する「ながのシティプロモーション実行委員会」では、各団体がさまざまな観点から活動を進めています。NUPRIとしては、長野の定住人口を増加させる取り組みとして、「教育県・長野」を再度見直し、「子どもの教育を長野で受けさせたい」と思ってもらえるような地域にしていこうと目標にしています。そのため、各団体との連携を図りながら、社会体験学習の推進、講習・講演会を展開。素直な子を育て、ひいては企

業を担う人材としての育成につなげていくような取り組みを検討しています。



ぜひご参加ください

わいがやサロン 岩野事務局長

月1回、会員の皆さんが集まり、自由な空気の中でわいがやがや意見交換をしていこうとスタートしたこのサロンも、おかげさまで46回を数えました。直近ではAC長野パルセイロの美濃部監督を講師にお招きする予定です。ますます多くの会員さん、また社員さんのご参加をお待ちしております。また、講師につきましても自薦他薦かまいませんので、ぜひご提案ください。



J2昇格に向けた勝負の年

ACC長野・パルセイロ応援 鷲澤部会長

皆様のご支援のおかげで、昨年はJFL優勝を果たしました。今季はJ3での初戦を控え、戦力を補強し、30名全員がプロサッカー選手という体制での発進となります。皆様にはぜひサポーターズクラブ会員にお申し込みいただき、悲願のJ2昇格を果たすべく、さらなるご協力をお願いいたします。J2への基本条件として、ホームゲームでの観客3000名を確実に果たしていかなくてはなりません。今年が初戦が東京、ホームは佐久と、長野から離れています。東和田での対戦では、なんとか1万人を集客したい考えです。あわせてレディースのなでしこ昇格に向けても、皆さんのお力添えをお願いいたします。



生産者の高齢化が課題

新産業創出部会 竹内部会長

「採れたて野菜市」も「りんごオーナー制度」も中山間地で生産を行っている農業経営者の高齢化や跡取り不在の問題が深刻化しています。せつかく定着して

る取り組みだけに、どう継続させていくかを考えなくてはいけない局面に入ってきました。引き続き中山間地の活性化をテーマに施策を検討していきますが、高齢化や跡継ぎの問題はイベントのみならず、地域全体の大きな課題です。この点も含め、検討や改善策を練りながら、市街地と中山間地を結ぶ貴重な取り組みとして継続させていきたい考えです。



鷲澤前長野市長 NUPRI相談役に就任

各部会の活動報告に続き、市川理事長より鷲澤前長野市長の役割について、相談役として今後もNUPRIの活動に提言、アドバイスをお願いしたい旨、動議が出されました。会員から盛大な拍手をもって承認され、鷲澤氏も快く受諾を表明され、新たに鷲澤相談役が誕生しました。NUPRIの先輩として、また、3期12年に亘り市政を担った経験者として、今後、NUPRIの活動をサポートしてくださることが期待されます。

2015年の善光寺御開帳におけるNUPRI対応について

夏目理事より提言

続いて、来春の善光寺御開帳に向け、イベント期間の盛り上げ及び長野の活性化を進めるために、NUPRIの積極的な取り組みを求める提言が夏目理事より行われました。

【夏目理事提言要旨】

長野市、長野商工会議所、善光寺奉賛会では、新幹線延伸後を受け、観光客などが長野で降車するひとつの契機として善光寺御開帳をとらえ、その成功と盛り上げのため、早くから連携してアクションを進めてきました。前回の御開帳では673万人という記録的な入り込みが記録されましたが、来訪者の増加に反し、宿泊を含む滞在や滞留が行われていないことが課題となっています。できる限り多くの方が御開帳をきっかけに宿泊し、長野をあまねく楽しんでいただくような施策を早急に考える必要があります。

まず第一は、夜・朝に施設・商店を営業する取り組み。次いで、泊まって楽しむイベントの創出。そして、「本堂に参拝するより回向柱に触れたい」と考える人々が多い傾向を、施策にどう反映させていくか。この3点



を中心に、地域の企業経営者である皆さんのお知恵をお借しただきたいと考えます。それらの施策を一刻も早く具体的に、旅行会社のパッケージに組み込んでもらうことが重要なので、ぜひご協力ください。

なお、善光寺御開帳の全国的な知名度を上げ、理解を深めていただくために、回向柱に関わる一連の流れについて、NHK-BSの「新日本風土記」の密着取材が検討されています。

会員の皆様のご意見、ご提案は、事務局でも承ります。皆さんの積極的な発案、アクションをお待ちしています。

講演

NUPRIへの提言

〜市政の運営の実績と経験から〜

オリンピック施設の
後利用を見据えて

NUPRI創始の精神は、オリンピックが終わってからのことを考えようということでした。当時は、かなり強引なことを勝手にやらせていただきました。

まず、年会費を12万円くらい集めていました。しかも、具体的な使途目的を持たず、絶対必要になると思って、全然使うことなく貯め込んでいました。

結果的に、それがエムウエーブの出資金になりました。オリンピック後、エムウエーブの運営を民間でやろうということになったのです。大きな建物だったのでNUPRI単独では不可能で、4,000万円位出資し、「株式会社エムウエーブ」を立ち上げました。も



ちろん長野市の企業にも出資金を募りました。エムウエーブを買い取るのに必要な予算は300億円ほど。全額を長野市で負担するのは困難であり、それを全部というわけには

いかず、長野市に次ぐ最大の株主としてNUPRIが名乗りを上げ、資金を出しました。

あれだけ大きなものを運営しようとする、正直言うとうちでも行政の力が強くならざるを得ません。代表取締役会長は塚田長野市長、私が代表取締役副会長という体制でスタートしたわけです。しかし、製氷に莫大な費用がかかります。スケートが始まると、水道光熱費だけで月に2,000万円位かかるため、それは行政に負担してもらい、NUPRIとしてはひたすら運営のみに取り組みました。その後、土屋龍一郎君に社長になってもらい、現在も一生懸命やってもらっています。

運営はオリンピックが終わった直後が実に苦勞でしたが、2年目からなんとか名目的に黒字になりました。補助金をもらっているのに黒字もないものですが、率直に言うとオリンピックの時はものすごくお金がかかるような運営の仕方をしていたので、見直し、検討し直して、黒字にしたのです。

オリンピックの時は、例えば電気は、木曾谷を通ってくる信濃幹線系と、上越発電所の2箇所の変電所から持っていました。テレビ放映権がからんでくるので、万が一にも停電という事態にならないためのリスク回避措置でした。実際、豪雪期に電線に雪が落

ちたり積もったりすると、ラウンドして停電になる可能性があるようです。昨冬、それを経験しました。もしオリンピックの開催中にテレビが一瞬でも見えなくなったら、その賠償額は計り知れないので、そこに莫大な費用をかけていたのです。施設規模からすれば1基で十分なエレベーターが2基あるのも、同様の理由です。

また、建物の建築は鹿島建設、製氷は前川製作所で、保守等が別々というのも費用がかかった理由のひとつです。どちらも世界のトップメーカーであり、専門的なことに関しては譲らない。数々の特許があるために、他の方法には変えられないということも多く、調整が困難でした。その後の交渉等により、2年目から、なんとか黒字を出すことができました。その時点で黒字の基調ができたのは良かったと思っています。それにしても、オリンピックというものはお金がかかるものだなあとつくづく思ったものです。

ところで、皆さんは「犀朝会」というのを覚えていますか。ホテル犀北館で朝飯を取るという会です。オリンピックの前にできたんです。その会で、私もオリンピック施設の後利用に関し、よく話し合いました。

中でも一番困ったのはボブスレー・リュージュのスパイラルの後利用でした。どうやって黒字にはなりません。あの施設を利用できるのはごく限られた専門の選手のみです。年間を通して100人に満たないのです。海外では「タクシーボブ」とか「氷上のF1」だとか、大変人気があると聞かれますが、とてもじゃないが操縦がむずかしいという。第一、非常に危険で、もしひっくり返ったら命にかかわることもあると聞けば、そんな使い方を認可することはできません。

陸運局もあれを「遊具」とは認めないということで、ますます後利用の道は狭くなってい

るわけです。そういう意味では、長野商工会議所会頭になられたシステックスの北村社長が今、越選手と一緒に頑張ってよく維持に貢献してくれており、ありがたいと思っています。

札幌オリンピックの時のボブスレー・リュージュ会場は、氷を全部人手で張り付けていく作業によってコースをつくりました。ガタガタする様子が映画で笑いを誘ったりしたのですが、現在では、その方式では正式な競技場としては認められません。2キロ位の距離で、100分の1秒とか1000分の1秒とかを争うわけですから、コースの正確さ、緻密さが問われます。自動氷結機を入れてはダメだということで、金のかかった施設でした。そんなことに何か意味があるのかと、オリンピックで皮肉を言った記憶があります。現実にはそういう競技なのです。

そうした経緯があつて、皆さんのご苦勞と熱意のおかげで、各競技場は一応今も維持されているわけですが、現状、維持するだけで精いっぱい、というのが、正直なところでした。

NUPRI活動の
指針とすべきものとは

そんな中、市長になんか変わったもんだから、NUPRIの皆さんと腹を割って話をすると、機会をあまり持てなくなつたのは事実です。とはいえ、NUPRIが私の選挙母体でしたし、市長就任中は「皆さんの考え方はわかる」というスタンスで、付き合ってきました。

「わいがやサロンの」の会報などを見せてもらっても、皆さん素晴らしい活動をしていただいていると実感していますし、本日の全体懇談会でも各部会の報告を聞き、それぞれに熱心に、よくやっていたいただいていることもわ

かりました。

そこで改めて、今後のNUPRIをどういうふうに維持していくか、皆さんで意見を交換し合って考えていただきたいと思います。その指針の1つとして、まず会員企業にどんなプラスがあるかを考える必要があるでしょう。こうした活動では、企業にとつてのプラスはあまり望めないのが一般的ですが、会員にメリットがなければ活動は続きません。会員企業が発展しなくては活動は活性化しません。それを施策検討の視野に置くことがこれからのひとつの課題でしょう。

もうひとつは、長野市のために、これが本当に有益なのかを考えることが重要でしょう。

この2つの観点から、常に我々はNUPRIの活動について検討を加えなければいけないのだらうと思っています。

私は、強引に高額な会費を集め、それを長野市に関わる施設への出資をするというようなきわどいことをして、それを皆さんに認めていただいて今日までできています。長野市にとつて有益なことであつたと確信しています。

皆さんの今後の活動においても、長野市のためになつているのかという点で、行政が、あるいは地域の皆さんが評価をするでしょう。先ほどの報告に出てきた諸施策は、実に素晴らしいものだと思う一方で、今の2つの観点で考えると、「果たしてそうか?」と思わざるを得ないものもあるように思います。必要なのはアイデアです。行政も、NUPRIも、他の団体も、どうも本当の意味のアイデアがないいつも思っています。失礼な話ですが、こうした、こうしたら?という一般論は、皆同じです。私自身にもアイデアがありません。その点に関し、もう少し力を入れていきたいなと思っています。

アイデアの1つとして、「話題を呼ぶもの」であることが大事です。話題性がなくいくらか何をやって、それが今の社会ではなかなか認められません。

次に、「具体的であること」が重要です。商売も利益が出ないといけないし、長野市のためにもならないといけない。御開帳についても、何をやっていけばいいの一般的な論はいくらか出てくるが、じゃあ具体的に何をやるか。話題を呼ぶ素晴らしいものが出てこなければいけないと思うのです。

たとえば、AC長野パルセイロのJ2昇格、そしてレディースチームのなでしこ昇格を、何が何でも目指すという具体的なものがありません。それによつて、そのために何が必要かが見えてきます。松本山雅は10億位の予算を組んでいるようです。せめて半分の位はぶちこめるような体制をつくらないとだめだと思っています。お金をどうやって集めるが大変な作業です。まず多くの観客にチケットを買ってもらわなければいけません。ここまで来たサッカーですから、トップチームもレディースも何としても次のステップに何としても上げたいですね。じゃあ何をやるのか、具体的に話をしていくことがものすごく重要になつてきているのではないかと考えています。

活動をしぼり込み、資金を集める仕組みづくりを

昔、日本スケート協議団長をやつていた橋本聖子さんから、あるスケート選手をぜひエムウェーブで採用してくれないかという話がありました。私も気が動いたのですが、本人だけではなく、どうしてもコーチと一緒に採用してもらいたいというんです。2人を採用する予算はありません。結局返事を渋ってしまったんですが、お金の

問題というのは非常に大きいことです。お金をどうやって集めるかというのも、実を言うとは今やらなければならぬ重要なことだと感じています。

先程、シティープロモーションの話も出ていました。私は、まずサッカーを取り上げる、2つ目は市民会館にリーダーを置いて、利用促進と活性化を図る、そして3つ目は花と緑を大事にするのを、具体的な取り組みとして進めるべきだと考えています。

そういうことを出すと必ず反対する人も出るものですが、それでもあえて絞り込んでいかないと、長野市の規模で、何から何でも全部取り上げていくのは無理です。財政的ということよりも、みんなの意識の中で「無理」という思いが出てきて、実現が遠くなると思うのです。そういう意味では、まだまだこれから先考えなければなりません。そして、みんなが「あの人のためならしょうがない、やるか」と思わせるような人を中心に据えることが重要です。

私はよく「金のことばかり」としかられるのですが、お金を集めることによつて、はじめて社会が動くことを、みんなが意識しないと何ともうまくいかないんじゃないでしょうか。

松本市のサイトウキネンフェスティバルが続いているのも、県がある程度出すということが決まったから、周囲の企業が協力するようになったのです。長野市と違って本当の大企業があることも大きいとはいえず、基本はお金が集まる仕組みを作った点にあることを見逃してはいけません。長野市にもその視点と取り組みが必要です。それが一番むずかしいことではあるのですが。

長野市の場合は、サッカーとスケートに、より大きな可能性があると思います。サッカーは先ほど言った通りです。スケートでは中学の大会で全国1位になった子がいますから、それを応援して、その子どもが本当にスケートを習う環境をよくしてやる、つまり、エムウェーブは冬季になったら毎日スケートができる場所にすることです。サッカーとスケートで日本一を目指しているじゃないかというのが、今後の活動を絞り込むとすれば大事なことであろうと思つています。

私も歳を重ねましたが、長野を思う気持ちに変わりはありません。今のところまだまだ元気がありそうです。皆さんと一緒に取り組む所存なので、どうぞよろしくお願ひします。



パネルディスカッション

NUPRIの
今後を考える

続いて行われたパネルディスカッションでは、鷺澤前市長の講演を受けて、NUPRIの今後の活動と組織の姿について、鷺澤前市長も交えて意見交換がなされました。来春の新幹線北陸延伸と善光寺御開帳、そしてそれ以降の地域づくりを見据え、会員の皆さんそれぞれの模索の契機としていただければ幸いです。

〈フアシリテート〉
掛谷理事

〈パネリスト〉

鷺澤前市長
市村副理事長
夏目理事
竜野理事
鈴木事務局次長



鷺澤前市長から、NUPRI草創期から市長時代における非常に興味深いお話をうかがいました。その中で、今後、NUPRIがどうあるべきかを考えていく指針として、まず「この活動が会員企業にとってどうプラスとなるか」を考えると、併せて「長野市（周辺地域も含め）のために有効な施策か」を考えるべきであろうとの基準提言をいただきました。これを基本テーマとしながら、今後のNUPRIの活動について、各理事さんから自由に意見をお出しいただきたいと考えます。



市村 その前に改めて思い出していただきたいのは、NUPRIが長野市街地に寄せた活動として最も重要だったのは、何と云っても長野オリンピックの際、セントラルスクエアで表彰式を実現させたことです。あのとき、NUPRIがやらなかったら表彰式は各競技会場で終わってしまっていました。鈴木さんはじめ、地域の皆さんには大変なお骨折りをいただきましたが、その結果、市街地のあのにぎわいにつながりました。特にスピードスケートの清水選手が500メートルで金メダルを取った日から、長野駅から権堂まで、中央通りが歴史的なにぎわいに包まれた。あれはNUPRIがなかったら決してできませんでした。ついでに申し上げると、それ以前、長野商工会議所の夏目会頭時代に、ずいぶん熱心だった市街地交通の「セル方式」が、一旦凍結しかかっていたのを、オリンピック前、特に善光寺の

大門町あたりだけでもなんとかしなければというところで、406号線が開通し、部分的ながら実現しました。「ばていお大門」、門前の「藤屋」の成功や、現在のあのきれいな門前町ができたのはNUPRIの力だったと断言していいでしょう。

NUPRIは案外大きいことをやってきたのだということも、会員の皆さん自身にもっと認識していただきたいと思います。

夏目 まったく同感です。ご承知の方もいらっしゃると思いますが、長野オリンピックの際、市街地の表彰式会場はビッグハットと決まっていた。町の中でやりたいなら、民間の皆さんが作ってくれるのだったらいいよ、ということになって、あのセントラルスクエアが実現した。つまり、あれは市が作ったのでも組織委員会が作ったものでもないんです。土地を手当てし、設備をつくるため、鷺澤さんを頭に、エムウエーブのモニュメントとする名入れの記念タイルを販売し、数千万円の資金をみごとに捻出したことを思い出しました。当時、一緒にがんばった皆さんの中には、もうお亡くなりになった方や今一線を退いた方が多いのが残念ですが。

先ほど、鷺澤さんが、ご自分を強引と評しておられました。当時のNUPRIは、提言とか云々とか言う前に、「やる！」団体として、独自のパワーにあふれていました。それを踏まえて、新幹線延伸、善光寺御開帳のタイミングでも何かやりたいですね。

御開帳に関して言えば、イベントそのものを良くするのだけではなく、話題性の高さを生かし、長野市に定着していくような意味のある催事、サービス、流通、ものなどを発信し、大きなイベントがない時期にも、それをまた楽しみに来ていただけるような仕掛けを考えていこうと思うのです。



観光の裾野は広く、そこから波及するものも大きいのです。大勢の方が来て滞留して消費していただくこと

により、古くなった施設や建築物への再投資も可能になります。そういう意味では、我々自身にもそれぞれ返ってくる仕事となるんですね。

ありがたいことに、放っておいても善光寺には毎年来ていただけて、御開帳には6百万人もの方が来てくれます。それを何とか引きとめ、滞在してもらわなくては、と思います。

竜野 私は「ここ掘れ長野調査隊」の隊長を拝命しておりますが、活動してみても、自分がこれまで、いかに街なかを歩いていなかったかを実感しました。実際に歩いてみると、意外な掘り出し物に出会うものです。

第1回の時は「イノベーション」をキーワードに、案内人の方に案内していただいて歩いたのですが、車で移動している時には気にも留めないようなお店に入っていくわけですね。意外とおもしろい造りだったり、古い建物を改修しておしゃれな喫茶店にしていたり。二度目のときは、「さおり織り」という古着の糸などを編んでいく体験をしたのですが、それも、車に乗っていると目に留まらない店舗でした。こうした活動を通じ、身近なところにもいろんなおもしろいものがあることに、改めて気づかされました。長野市の観光というと、車中心に動くという話になりがちですが、あえて車を捨てて歩かせるといふ発想もありたいでしょう。長野駅から善光寺まで歩いて



かなり知れている距離ですし、歩けない距離ではない。疲れたら、中央通りでバスに乗ればいい。観光客も我々も「歩けるまち」にしていくのはどうかと思います。

個人的に城めぐりが趣味でして、北海道から沖縄まで、日本100名城のうち50を超えたところまで来ました。その際、駅から40、50分程度の距離なら必ず歩きます。それよりちょっと遠いところなら、公共交通機関を使います。その土地その土地のおもしろさを感じられるからです。長野市も歩いて楽しめるまちになればいいと思います。

鈴木 長野オリンピックの当時、私は長野県庁の職員でN A O Cに出向しており、セントラルスクウェアに詰めつきりだったことを思い出しました。民間団体であるNUPRIの存在も、表彰式場への取り組みも、かなり希有なものとして記憶に残りました。ところがその後、NUPRIに携わらせていただくようになったのですが、会議、会議、会議で、具体的な実践にはなかなか至りません。先ほど、鷺澤前市長がおっしゃったように、アイデアが足りないというのは私も耳が痛い話ですが、会議ばかりの状況も



よろしくないと思います、2年前から「門前まち花遊歩」の企画・開催に至ったわけです。これは話題

も集め、確かに新聞に載りましたし、全国的にも取り上げていただきました。しかし、まだまだ知名度が低く、滞在につながるものにはなっていません。それでも、発言するより行動・実践が人からの評価を生むということ実は実感しています。こうした挑戦をどんどんしていくことが大事であろうと、私は強く感じています。「NUPRIは金を出します、金を集めます」という組織ではなく、実際に汗をかき、行動を起こしていきけるような団体になればいいなと思っています。

鷺澤さんはNUPRIの初代理事長としてあのセントラルスクウェアを推進し、その後、オリンピック後の長野市の首長を経験されました。その目線から、長野市の観光についてどうご覧になっていますか。

鷺澤 皆さんのお話の中で先ほどから出ているセントラルスクウェアの表彰式ですが、あれが成功した一方で、ダメになった話を皆さん、覚えていますか。「ホテルナガノインスターナショナル」の挫折です。セントラルスクウェアのあの場所に国際的なシティホテルをつくる話があり、かなり進んだのですが結局ダメになりました。事業主体となるはずの第一生命が手を引いてしまったのです。あの時、挫折せずに実際にホテルが建っていたら、世の中が変わったかもしれないですね。

実は、あのホテルをつくるために国が特別な貸金を用意しました。ちょうどNITTYや国鉄が民営化して株式を公開した時期で、そういうところのお金を基金にして、低利で貸し出すという仕組みができたのです。しかも金融機関が間に入り、地方自治体から民間に貸すというスタイルを取りました。行政には何億という単位のお金が一旦国から

入ってくる。貸し先は銀行が保証してくれるから行政は安心です。低利ですから、放送局、温泉施設、ホテル設備などにぜひぶん使われました。莫大な額のお金が確かにその時動いたのです。ところが、その後どうなったか。多くの企業が返済できずに銀行のてこ入れを受け、経営者交替、組織整理などが行われました。シティホテルで残ったのはJ Rの駅前だけです。市内のホテルはほぼ全部、経営者が代わりました。その一方で、長野市の腹は痛みませんでした。つまり、行政はリスクを取らないんですね。

それはさておき、長野市にホテルがホテルの形で残ったのは大きな意味を持ちます。新幹線や高速道は、地域にそういうホテルがなければ本当の意味で動きません。こうした資金の動き、社会の変化を礎に、今の長野市の社会が運営されている点を、皆さんに理解しておいていただきたいと思っています。

私は最近メルマガを発行しています。今、まさにオリンピック絡みの話を書き始めていて、先ほど、皆さんが話してくださいましたことや、その周辺の話も、これからどんどん登場してくる予定です。また、市長になって、長野市をどういう方向に持っていくかと考え、実際にどうしたかという点も、これから書いていきますが、振り返ってみると、「アイデア不足」は否めません。それもすべて過去のこと。もう終わったことです。過去を踏み石として、これからどうしていくかは、皆さんに考えていただき、もっと語っていただきたいと思っています。

未来に向かってNUPRIは何を考え、何をすべきでしょうか。

市村 私が先ほどオリンピックの話をしたのは、実は、NUPRI自身が大きな資金

の出資元とならなくても、結構力を発揮できるぞ、という意味もあるんです。市街地に人を集めるためにセントラルスクウェアで表彰式をしようと気づき、実際に実現させたように、大きな発信力になるには、まず「発見する」ことが大事だと思います。

私は前々から、長野に足をはこぶビジネスマンに長野を印象づけるには、善光寺の「お朝事」のインパクトが最高だと考え、発言してきました。東京やニューヨークから相手を呼んで商談する場合に、従来パターンのレストランで食べてバーで接待してというような、どこの土地でもやっているような接待ではなくて、長野にしかできないことで印象づけければ、それだけでアドバンテージが高くなります。早朝、善光寺の「お朝事」を体験して、あるいは戸隠バードウォッチングをやった後に「お朝事」を体験し、朝食を取りながらミーティングや商談をするわけです。朝ビジネスは「仕事ができる」イメージも高いですね。ゴルフと一緒にやるよりも、非常に短時間に強烈な印象を相手に植え付けることができます。そういう文化を長野の皆さんが持つような働きかけをしようというのです。そこに大金の投入は必要ありません。

善光寺門前の一面に、2年ほど前に古い商家を再生した「鯉焼き」屋があります。大阪の人で、東京で料理人をやっていたけど、長野に来る前に軽井沢で主として出張料理をしていたという。現在は、素材にも形にも徹底的にこだわった「鯉焼き」なるものを作り、毎日売り切って終わりという商売をしています。その彼



も徹底的にこだわった「鯉焼き」なるものを作り、毎日売り切って終わりという商売をしています。その彼



的にアピールしたはずでした。ところが、5月の連休なのに全然人がいない。お練りもあったのに、駅から降りてくる人の姿がない。あつちこつちのマンションからちよろちよると人が出てきて見ている程度です。聞いてみると「御開帳って何なんですか?」とか「回向院ってどこですか?」という反応なんです。

実はこれ、東京の人ばかりではないのではないかと。私たちにとっては当たり前のことですが、外に向けても内に向けても「御開帳」の意味を発信し直す時期に来ているのではないのでしょうか。先ほどの「お朝事」も善光寺がもともとお籠もりをする寺であったことから始まっていますね。そういうことを発信してあげないとわからないんじゃないかと思えます。

その一方で、長野の人は真面目ですから、「昔からないものはやっちゃいけない」という感覚があり、新しい企画に眉をひそめるくらいがあります。話題性にうまく乗る、新しい伝説とか、縁起物とかを作り上げてしまってもいいのではないかと思えます。

竜野 善光寺周辺の脇道には、柔軟な考え方の人々の新しいショップやカフェが増えてきていますよ。そういう道に新しく通りの名前をつけてあげるというのも、おもしろい取り組みかもしれませんね。

もちろん、歴史を語れるボランティアの方々もたくさんいらっちゃって、御開帳や市内の社寺についてよくご存じです。再発

が来年は御開帳だから、店に2階を造ってお朝事後、1組か2組でいいので朝の精進料理を出そうかなどと考えているそうです。朝ビジネスの場として、非常に魅力的ではありませんか。こういうことが徐々に浸透していくと、長野に新しい滞在の価値が定着するでしょう。

信には、ぜひそういう方々の活用も考えてみたらどうかと思います。

市村 江戸時代から綿々と続いている「赤線」(道路法の適用を受けない里道)を、財務省から払い下げてもらい、イギリスの「フットパス」ルールにならって、地域一帯を歩きやすいまちにしてみるのも一案ですよ。小布施ではすでにやっていて、「里道」として定着しています。銀座でも取り組んでいますね。赤線は不法占拠されている土地が多いのですが、新たな時代の使い道を考えていくと、都市戦略として非常に有用な方法だと思います。

鈴木 私は細い道を歩くのが大好きです。先日、視察に行った金沢には、伝統的建造物とあわせ、細い道が結構多いのですが、よく整備されていて、歩行者に非常にやさしく、歩くだけでワクワクしてくるような道になっていました。昭和41年からの取り組みだそうですね。

試しに、金沢の人に長野のイメージをたずねると、「長野といえは軽井沢」との答えでした。長野市については、「長野はいい。大自然もあるし野菜もおいしいし、パワースポットもあるし。まあ、善光寺もあるね」という感じ。大自然とか、空気がおいしいとかのほうが、歴史や文化より魅力的なのですね。プラス最近健康長寿県第1位。国民の心の豊かさ、幸福度第2位、と高い数値を誇っています。「善光寺の」という切り口だけでなく、外の方々が魅力と感ずる切り口で長野をアピールしていくのも大事だと思います。また、東京ばかり見るのではなく、金沢市など北陸方面に、長野市のアンテナショップを置いたりするのもおもしろいのではないのでしょうか。

市村 金沢の話が出たので追加しますと、金沢が景観のことを考えて路地をはじめとする都市計画に取り組んだのは昭和30年から。全国的に断トツの早い取り組みで、「通り」を非常に大切にし、市の建設課がリードして進めました。路地とあわせ、農業用水を暗渠から明渠に戻したんです。長野では、市街地の用水のほとんどが暗渠になりましたが、鍋屋田小学校あたりに流れている北八幡川は30年代に明渠に戻したそうです。それが今、ホタルや親水の歩道として注目されていますね。

また、石川、富山、新潟の人が異口同音に言うのは「長野の野菜が抜群にうまい」ということです。ところが長野の農業関係者は野菜には熱心ではなく、果物、果物なんです。この点にも、今後へのヒントがありそうですね。

鷺澤 先ほどお話しした私のメルマガに、かつての裏話の数々を紹介していく予定です。古いことですが、そこに携わった思いをご理解いただくとともに、今後の施策、指針への参考としてお読みいただけるとありがたいです。



掛谷 まちが活性化しなければ、企業も生き残れないし、企業の発展がなければまちも魅力的にならないというのが大前提かと思えます。本日の皆さんのご意見を、会員企業間の連携を取りながら深めていき、より良い取り組みに生かして、いい未来をつくりたいと思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いします。